

科目名	地理学概論		英文表記	Geography		3月5日	
科目コード	3016					作成	
教員名: 木村和雄							
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
全学科			3年	必	履修	2単位	講義
科目目標	現代社会を構築してきた人々の活動とその背景を系統地理学的に把握する。社会を表現する様々な空間情報を統計や地図を通じて理解する。						
総合評価	定期試験(中間・期末)の得点(90%)および受講態度(10%)により評価する。						
科目目標達成度	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
			理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	最低限必要な到達レベル	セルフチェック	
	① 現代社会を構築してきた人々の活動とその背景を系統地理学的に把握する。	理解度を定期試験で評価する	将来、受講生が活躍する「場」の地域像をイメージでき、その改善に関わる意識を持つ。	自然環境・人口・産業立地の地域性を生んだ要因・過程を理解できる。	自然環境・人口・産業立地の地域性を理解できる。		
② 社会を表現する様々な空間情報を統計や地図を通じて理解する。	理解度を定期試験で評価する	気象統計・地形図・ハザードマップ・人口統計・各種分布図等から、地域差を生む要因を説明できる。	気象統計・地形図・ハザードマップ・人口統計・各種分布図等から、地域の特徴をイメージできる。	気象統計・地形図・ハザードマップ・人口統計・各種分布図等を読むことができる。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
				◎			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	0	10	100	
基礎的理解	①②	90(67)		0(23)		90	
応用力(実践・専門・融合)						0	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲	①②				10	10	
授業概要、方針、履修上の注意	授業は主に講義形式で行う。講義は1)地圏環境と空間利用、2)人口の分布・構造と変化、3)産業立地、以上の3テーマに焦点を当てる。それぞれについて、知識や情報読解能力の定着を定期試験で評価する。ただし、4回の定期試験のうち、1回はレポートに置き換える場合がある。						
教科書・教材	教員が作成した講義資料およびプレゼンテーション資料						

授 業 計 画

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	地理学への招待	2	地理学の全体像と授業の進め方を概説する		
2	統計気候1	2	地球規模の成帯的な統計気候を学ぶ		
3	統計気候2	2	気象統計を用いた地域区分の方法を実習する		
4	統計気候3	2	日本や沖縄の統計気候的位置を知る		
5	総観気候	2	天気図や衛星画像の気候学的判読方法を学ぶ		
6	植生と土壌	2	気候との関係が深い地圏環境について学ぶ		
7	水文環境	2	水の分布と動きについて知る		
8	前期中間試験	2			
9	地形の形成要因	2	地形を造る力＝営力について知る		
10	地殻変動と地形	2	変動地形について学ぶ		
11	火山活動と地形	2	火山地形について学ぶ		
12	浸蝕作用と地形	2	浸蝕地形について学ぶ		
13	堆積作用と地形	2	堆積地形について学ぶ		
14	暮らしの基盤としての地形	2	応用地形について学ぶ		
15	地圏環境情報の活用	2	地形図・ハザードマップの読解演習を行う		
期末	期末試験	[2]			
16	世界の人口1	2	地球規模の人口分布と変化を学ぶ		
17	世界の人口2	2	世界各国にける人口の基本構造を学ぶ		
18	世界の人口3	2	世界各国の人口問題・政策を学ぶ		
19	世界の人口4	2	世界各国における人口の社会構造と移動を学ぶ		
20	日本の人口1	2	日本国内の人口の分布と変化を学ぶ		
21	日本の人口2	2	日本各地における人口の構造的特徴を学ぶ		
22	日本の人口3	2	日本国内における人口移動の経過について学ぶ		
23	後期中間試験	2			
24	産業基盤の地域性1	2	世界の第1次産業立地について概観する		
25	産業基盤の地域性2	2	日本の第1次産業立地について概観する		
26	近代工業の成立と展開	2	世界各地の工業立地について学ぶ		
27	日本の工業地域1	2	日本の近代工業の成立と展開を学ぶ		
28	日本の工業地域2	2	構造転換期の工業立地を分析する		
29	日本の工業地域3	2	工業立地の業種別の事例を学ぶ		
30	日本の工業地域4	2	工業立地の地域別の事例を学ぶ		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	